

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者様」「ご家族様」「その人の環境」「その方の背景」「地域」それぞれに”寄り添い”思いを繋ぎ合い、援助していくことでその人の生き生きとしたその人らしい生活ができていけるように、当施設ではそれらをまとめて”寄り添い”として理念に掲げています。	○
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はもっとも重要なものという位置づけで取り組んでいます。 ①入社時には必ず理念教育を行い目標や存在価値、やらなければならないことをしっかり理解させています。 ②事業所会議にて「今月の寄り添い」として各職員事例発表を行いディスカッションやグループワークすることで同じ尺度、同じ価値観での理念の実施を可能にしています。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①運営推進会等は、もちろん、交流会等や家族会などを定期的に行い、当施設のあり方や考え方を地域の方々に理解して頂ける場所をしっかりと作れていると思います。 ②定期的に「ひだまり便り」を作成し地域の方やご家族様に対して発行しています。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	仕事上はもちろんの事、普段の生活の場でもしっかりと挨拶、お礼をはきはきとした声で伝えることを徹底しています。地区の方が、当施設の畑の指導や手伝いに来てくれるなどの交流もある。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年は地元の運動会や敬老会などに招待されたりと地元のイベントに参加できる機会が増えてきた。また、地域の老人会への介護保険の説明など積極的に交流を行っています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域へ老人会等などを通じて介護分野などの相談を積極的に行うことにより自宅での介護や知識、情報提供などを行い地域での高齢者を間接的にではあるが支援しています。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より多くの視点で物事を判断して、より最適なサービスの提供を心がけています。その1つとして外部評価はとても意味のあるものだと考えています。外部評価後の指摘やアドバイスは直ちに事業所内にて検討し改善等を行っています。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区代表の方、ご家族様代表の方などの貴重な意見を事業所の会議にて報告しその改善点や実施への取組みを次の会議にて報告し、確実に少しずつ成長できるように心がけています。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談、報告は確실히行っております。また、どちらに偏ることもなく行政、お客様の意見をしっかりと把握しバランスのとれたサービスを心がけています。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会や社内での勉強会を行っている。また参加できなかった者は、研修報告などを行い確実に知識の共有を図っています。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やチェックポイントなどを各職員しっかり把握し、テレビの中の出来事などと考えず、もしかしたら、身近にもあるかも知れない。というしっかりとした意識で業務に取り組んでいます。日頃から虐待についての話し合いの場を持ち職員の意識を高めています。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、利用者様やご家族様がなっとくして頂けるまで説明の時間を取り誤解や不安が残らないように取り組んでいます。 また、こちらからお客様に疑問点等を問いかけることを必ず行い解決しています。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を意見交換の場としたり、苦情対応マニュアルの整備を行い、第3者機関の連絡先担当部署などを明記し、事あるごとに紹介している。	○
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①面会時、便り等で定期的に知らせている。 ②金銭管理は一切行っていないが立替える場合に必ず連絡し了承を得てから利用者様の判断で買い物をして頂く様にしている。 ③健康状態の把握の為に月に2回往診、または必要に応じて受診し、必ず結果を報告している。	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①すぐに対応し、速やかに改善している。 ②利用者様、ご家族様など苦情や要望を出し易いように声かけや雰囲気作りを心がけている。 ③お客様アンケートを行い管理者、代表者に直接要望や苦情を伝えられるよう配慮している。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①事業所、主任、所長のそれぞれの会議があり、職員の意見を聞いている。 ②定期的に職員と面談し、対話の機会を設けている。 ③自己評価(2面評価、3面評価)を行い、多数の視点から自己を見直しながらアドバイスや考え方を相互に話し合っている。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員数を基準以上に配置し、急な事態への対応も可能な体制を整えている。また、対応が必要な場合には緊急会議を招集し、勤務体制等を即時決定変更できる柔軟な体制を整えています。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①異動や離職が出来るだけ出ないように職場環境、人間環境等への配慮を行っている。不安定な職員が居る場合には、即時面談等にて不安材料を出来るだけ取り除いていくようにしている。 ②職員教育の1環として、必ず他の施設の異動をさせているが、その際は事前にご家族様には話し、利用者様に影響が出ないように1施設からは原則1人としている。	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①入社時には新人社員研修にて教育を開始し、個々の力量を測りながら、所長、主任また、指導員の判断にて研修、勉強会に参加させている。 ②法人内にて、看護・介護会議を設け、全体に必要なスキルや情報を一旦集約し、そこから教育プランを作り現場に下ろしている。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①見学や視察受入を積極的に行いながら、情報交換や職員同士のコミュニケーション、知識向上に役立てています。	○
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	①本部より毎月慰労金が支給される為、定期的に食事などにいき、職員同士の会話の中でストレス発散や問題解決を行っている。 ②指導員が毎日全施設を巡回しているので職員の観察、職員からの訴えを早期発見できるようにし、素早い対応をとるようにしている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所にてPMSを行い、日々目標策定と達成方法立案、改善、達成と目に見え、感じれる試練と達成を行い実感させつことにより、常に前向きな考えで取り組めるようにしている。 また、しっかりと進捗状況を把握し、適切な時期に適切なアドバイスを行い行き詰まりによる向上心低下を防いでいる。	○
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①事前訪問で関係作りをしっかりと行っている。必要ならば何回でも訪問を行い関係を事前に作る。 ②10年前の生活環境、趣味趣向、仕事などを把握し、本人の生活スタイルを受容することでコミュニケーションを取りやすくし、本人の不安やストレスが少なくなるような環境を作っている。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①訪問、電話、文書などにより関係を深めるようにしている。 ②アンケートを実施し、代表者に直接返信できる対策をとり意見、要望を受け止めるようにしている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら必要に応じた援助を見極め、対応している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネージャー、家族様、その他関係者と相談、協議の上、その人にとって一番最適な方法をとるようにしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①利用者様を人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず、相談、指導、協力を基本として共に生活していくことを徹底している。 ②家族会などを通してご家族様と一緒に利用者様の生活を援助していくようにしている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①介護の2面性を十分に理解し、ご家族様の負担や思い、ご利用者様の生活と思いの両面を常に意識し、最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの関係に応じた柔軟な対応を心がけ、ご家族様と一緒に利用者様の生活を援助していくようにしている。また、当施設を利用することで今まで以上により関係作りが出来るように日々考慮している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①お正月、節句、お盆、大掃除など昔ながらのならわしを家庭的な雰囲気で行っている。その方の家庭のならわしを出来る限り適応するようにしている。 ②地元の敬老会などへ参加されたりしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに、時には通訳などになり一人ひとりが楽しく生活できるように援助している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了は現在まで無く、亡くなられるまで利用をして頂いています。初盆参りやご家族様の顔を見にいくなどの関係を築けている。また、施設のイベントには必ずお声かけをし、気軽に立ち寄れる場所でありたいと思っている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①日々の会話からさりげなく聞き取るようなスキルを日々意識させている。また、アンケート等を行いみなさんが気軽に希望を言えるようにしている。 ②希望がある場合には、最善を尽くすようにしている。難しい場合には専門家や経験者などへ依頼、相談などをして、事業所だけで合否を決定しないようにしている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員が日々の観察を十分に行っている。また事業所の会議にて利用者様についての話し合いを徹底して行い、多くの視点にて総合的に把握している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①会議等にてよく話し合いプランニングしている。 ②家族の方、ご本人様にしっかりと説明し、意見や要望を聞き取り、必要であれば再度見直し、聞き取りを繰り返し納得のいくプラン作りを出来ている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①実施期間を明示し、3ヶ月ごとに評価している。 ②個々の状況の変化に応じ、随時カンファレンスで話し合い介護計画を立て直している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一目で援助内容が分かるように日々生活援助を具体的に書き出して、カルテに綴じ、チェックするようにしている。 ②個別ケアも1日1日記入している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①買い物に行きたい、散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。 ②家族様等の要望には施設内にてよく話し合い柔軟に対応している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じていただいている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて協力を得ながら対応している。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時に地域包括支援センターと協働できるように情報を得ている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人のかかりつけ医を設けて、定期的に往診、受診している。 ②かかりつけ医とは、24時間体制で契約している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①一人ひとりが人生の先輩として尊敬し、またお客様として人格を尊重し関わっている。 ②一人ひとりのプライドを損ねない様、またその人の世界を大切に受け入れることを大切にしている。 ③記録の保管等に配慮している。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	①自分が色々決定していくかは、日頃のケアの満足感から生まれるためゆったりとその人に合わせた生活をしていただく。 ②一人ひとりの好きなこと、今までしてきた事を決めていく。 ③静かな方、あまり表現しない人に対して、特に働きかけている。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①生活の流れを職員側のやり易さにあわせるのではなく入居者側にあわせている。どんなに忙しいときでも入居者が話しかけてきたらきちんと向き合い話を聞く。 ②利用者様に関わる時はゆったりする事を大切にしている。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの希望に合った化粧、髪型、服装をしていただき、自分で出来ないところは介助している。 理美容は訪問美容を受け入れているが、本人が希望されれば、希望される美容室へ足を運んでいる。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①母体施設の栄養士に相談しながら献立を作ってもらっている。 ②食事はもちろんのこと、準備片付け等も利用者と職員が一緒になって楽しみながら行っている。 ③利用者様の希望を週に1回とり、選択メニューを取り入れている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は個々に合わせて対応している。また馴染みの食器の利用など食事を楽しんでいただける支援している。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①排泄チェック表を活用し失敗を防ぎ出来るだけトイレにて排泄していただくように取り組んでいる。 ②入所時オムツだった方も、トイレに誘導することで自力排泄が可能になられている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが希望に合わせて入浴ができるように支援している。 お風呂が好きな方は一日に何度も入浴してもらい、毎日希望の方は必ず毎日入浴できるようにしている。お湯の温度、入浴時間も一人ひとりの希望に合わせている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつくり、安眠に繋げている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の個々の楽しみ、役割が持てるよう入居者様の意思を尊重したり、職員から情報を提供して張り合いのある生活に繋がるように支援している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。 ②訴えの無い方にも声かけを行い外出や買い物を楽しんで頂いている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い日には日常的に散歩や買い物などを積極的に行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさと訪問などを行っているが家族によっては不可能な方もいらっしゃる。 また、ドライブやバスハイクなどにより普段なかなか行けない場所へも定期的に外出支援を行っている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など自由に利用できるよう訴え時は、すぐに対応している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①居室でお茶を飲みながらゆったり過ごして頂いている。 ②歓迎し、入居者様の生活の様子を丁寧に話している。 ③宿泊時は泊りやすく配慮している。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①行っていない ②現段階で必要がない。が普段より拘束を必要としないように精神的、肉体的ケアに努めている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①日中は施錠していない。自由に外出していただけるような体制をとっている。徘徊等も含め制限することなく職員が同行にて外出して頂いている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して安全に配慮している。こまめな巡回を行い所在、安全確認を確実にやっている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所、管理方法を明確に決めている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①緊急時の対応マニュアルを整備し、全職員が対応できるように訓練している。 ②看護、介護マニュアルを整備し、リスクの防止に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルの整備により全職員が対応できるように訓練している。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①消防署、地元消防等と日頃から訓練等でお世話になり連携を取っている。 ②マニュアルの整備にて混乱がないよう訓練している。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに対しては早期にリスクを予測し可能な限りご家族様と共に対応等を話しながら本人様にとってもっとも良い方法を考えている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	①看護師が常勤し早期発見に努めている。 ②各勤務帯で健康チェックし、情報を共有し、早期対応に繋げている。 ③看護会議等にてマニュアル等を整備し、各職員の知識向上を行い、早期発見への観察力強化に努めている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服者一人ひとりの薬の効能を知り、医師の指示通りに内服できるように支援している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①野菜は温野菜にしてなるべく多く摂取している。 ②勉強会等にて排泄のメカニズムや便秘対策などの知識を向上させている。 ③日々の日常生活の中で出来るだけ自然排泄できるような工夫を行っている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①毎食後必ず、うがい、歯磨きをおこなっている。出来ない方は援助して行っている。 ②入れ歯使用の方は定期的に消毒を行っている。また、食事前には必ず口腔体操を行い口腔を意識した支援を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、摂取量の状態を記録し、情報共有し個々のケアに繋げている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	①感染症についての勉強会や研修に積極的に参加し知識向上を行っている。 ②感染症マニュアルがある。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①食材に応じて衛生管理に努めている。 ②調理用品などは、熱湯消毒をしたり、布巾等はハイターに毎日かけ管理している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①玄関周りに花を植えたり、手作り表札を置いたりしている。 ②玄関は常に開放している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①家庭的で、カーテン・家具などを暖色系としており、ほっとするような雰囲気が出来ている。 ②施設内には季節の花を常に飾っている。施設の方針で造花等は一切飾らず本物の花のみを飾る。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の通路を妨げない場所にソファを配置し、気のあった物同士でゆっくり会話できる場所を設けている。 また、1人でほっとできるような場所も設けている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形などの生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①空気の入替えは時間を決めて夏冬でもきちんと行っている。 ②冷暖房の調整には気を配り、温湿度計をみながらエアコンの設定温度ではなく実質の温度にて調整している。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計にて、自立援助を支援している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族からの情報等を活かし、工夫につなげている。また、入居者様の希望をしっかりと受け入れている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	①庭に畑を作ったり、洗濯物干しを置いたりして生活している。 ②ベランダにて花を育ててある方もおられる。 ③テラス等でお茶を飲みながら景色を楽しんでいる。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活環境とご家族様との絆を特に重視して運営を行っている。その為に掃除や衛生管理、その人にあった生活スタイルの確立を重視している。また、楽しく日々を送れるようにメリハリのある生活、新鮮さを一緒に感じることに力を入れている。

ご家族様の絆を、当施設をご利用になることで強く出来るように、ご家族様の負担や思いをしっかりと受け止め、さまざまな障害のクッション、またはバリアになることで今まで以上にお互いのことを思いやれる絆作りができればと職員一同力を入れています。

また、認知症による生活環境、絆の低下を防ぐために「くもん学習療法」を導入し、認知症進行防止や少しでも改善につなげるよう努力しています。